

## 令和7年度 第1回 地域連携推進会議

### 1. 開催日時

令和7年11月26日（水） 13:30～15:00

### 2. 開催場所

こんにちは友が丘 ふれあい会館

### 3. 会議出席者

地域住民代表： 1 人

家族会代表： 3 人

行政担当者： 1 人

社会福祉法人北須磨保育センター 理事長 1 人

当施設利用者代表： 1 人 （女性）

当施設職員： 3 人

### 4. 報告事項（施設より）

#### (1) 事業運営の現況

- 現在の事業内容報告（入所・生活介護・日中一時支援・短期入所）。
- 生活介護事業において、外部利用者の受け入れを開始。
- 入所者の日中の生活の場、活動の場の模索について現状を報告。

#### (2) 職員体制・業務改善

- 男性職員不足の現状について共有。
- 対策として、役割分担の明確化による業務軽減と効率化を推進中。

#### (3) 支援方針・地域移行について

- 「利用者の尊厳」を最優先にする取り組みの報告。
- 地域移行への考え方として、「ケアコミュニティ」の構築に向けた説明。

### 5. 協議・意見交換

#### (1) 地域移行施策と行政の責任について

- 【家族会】 地域の受け入れ体制（グループホームの整備等）が整っていない現状がある。それにも関わらず、十分な加算や補助といった裏付けもないまま地域移行を

進めようとする国の姿勢は、無責任ではないかとの強い意見が出された。施設単独の努力で体制を整えるには限界があり、国による制度的な基盤整備が先決である。

- 【家族会】 入所者が帰省する際などに移動支援等の制度が利用できず、帰省が困難になっている（家族による送迎も高齢化で限界がきている）。現行制度では、「できない」と済ますのではなく、実態に即した支援を検討してほしい。
- 【行政（区役所）】 制度の運用や解釈、新たな予算措置については、区役所レベルでは判断・回答が難しい面がある。本日いただいた「現場の実情と制度の乖離」については、市（本庁）へ伝える必要がある案件と認識した。

## (2) 地域との交流・活動の様子について

- 【地域住民代表】 以前は大勢で散歩に来ている様子を見かけたが、最近はあまり見受けられない。地域の風景が変わったように感じる。
- 【施設回答】 利用者の高齢化やコロナ禍の影響による足腰の弱体化もあり、現在は「集団での長距離移動」よりも、近場での日向ぼっこや、歩行可能な方が少人数で外出する形にシフトしている。以前のような賑やかさは減っているかもしれないが、一人ひとりの身体状況に合わせた支援を行っている。

## 6. 施設からの提案・今後の方向性

「情報をつなぎ、安心して暮らせる環境づくり（マイライフブック）」の提案

マイライフブックとは ご本人の生育歴、ご家族の想い、そして個性や特性を、関わる全ての方が協働して紡いだ「人生のガイドブック」です。【目的】 環境が変わっても、どこへ行っても、その人らしさが大切にされ、切れ目のない一貫した支援を受けられるようにするために作成します。

本日のご意見を踏まえ、施設長より以下の提案を行った。

- 利用者が「住みたい場所」「過ごしたい場所」を探していく活動を継続する。
- その際、一人の利用者に関わる全ての人とその人の情報を補い合い、共有するツール（マイライフブック等）を活用する。
- どこへ行くにも「その人の情報」が共に移動することで、場所が変わっても困らない、切れ目のない支援環境を作っていきたい。

## 7. 施設見学

こんにちは友が丘の生活空間の巡回を行った。おやつが自己選択性であることを確認していただく。とても静かで、高齢化してきている現実を感じるなどの感想をいただく。

以上